

無電柱化はどこまで進むのか？～好機を捉えて前に～

NPO 法人電線のない街づくり支援ネットワーク

理事兼事務局長 井上 利一

最近、小池百合子東京都知事が誕生し、無電柱化を公約に掲げていたこともあって、無電柱化がTVのワイドショー等で取り上げられるようになってきた。ワイドショーの話題に上がれば、いわゆるフォロワー層に浸透するときだ。私にも声がかかり、9月9日には、テレビ朝日の「羽鳥慎一モーニングショー」、TBSテレビ「ひるおび！」に連続で生出演する機会を得た。まさに、小池様々だ。たいへんありがたいことだ。また、去る11月10日の無電柱化の日（一昨年から指定された）には、当NPOも後援する「無電柱化の日シンポジウム」（高田昇理事長がパネラーで登壇）が都内で開かれ、400名が詰めかけた。この模様はNHKの関東ローカルでも放映されるなど、無電柱化への高い関心を裏付けた。何かが前に進むときには、時の運というものも必要だと、改めて感じた。

こうした中、無電柱化はオリンピックまでどの位進みますか？また、日本の電柱・電線はなくなりますか？といった質問をよくいただく。これに関しては、正直わからないというのが本音だ。無電柱化推進法案（11月29日現在）もまだ成立しておらず、無電柱化の低コスト手法についても、道半ばである。建前としては、「この勢いに乗って、大いに進むと思います。」と笑うのだが、ものごとがそうそう簡単にうまくいくはずがない。国が無電柱化推進計画を主導している現状においては、『シン・ゴジラ』を観るまでもなく、なおさらだ（手続きや各ステークホルダーの調整に時間がかかる）。かといって、我々のような民間団体が、どれほどの影響力を發揮できるかは、10年間この活動を続けてきても、スッキリと視界が晴れない。

そんな中、明るいニュースもたくさん出てきた。昨年、全国の首長が無電柱化推進法案の早期成立を訴えて「無電柱化を推進する市区町村長の会」を設立。今年で280団体が加盟する。それぞれの地方で議会決議として、「無電柱化推進法案の早期設立の要望書」を出している。地方からこうした声上がることは我々にとっても、大変に心強い援軍が来たと言える。地方にしてみれば、無電柱化はコストは掛かるが、観光振興や防災という観点でも、進めたい事業なのだ。また、無電柱化の日の前日の11月9日には、『超党派「無電柱化法案」早期成立促進議員連盟』の設立総会が行われた。私も呼んでいただいた。自民党は以前から、独自に無電柱化小委員会（初代会長は小池百合子氏）を立ちあげて活動をしていたが、この動きをさらに加速すべく、与野党が結集する動きとなった。この議連には、自民党の他に、公明党、民進党、日本維新の会の4党が参加。名前の通り、今国会で無電柱化推進法案の成立を目指すという、たいへん力強い団体ができた。3年越しの法案成立に大きな期待が持てる。

2007年4月にNPOを設立して、来年4月で満10年となる。この節目に、何とか、活動を続けられて、今の無電柱化の大きな流れに多少なりとも、力になれたことをたいへん誇らしく思うとともに、これから、本当の無電柱化推進に向けてのスタートという気概で、日本の空から電柱・電線無くして、安全安心な街を後世に残したく、会員の皆さんと共に活動していきます！



『ひるおび！』へ生出演



超党派議連設立総会で挨拶する遠藤利明共同



応援に駆け付けた小池都知事